



舞台本番を目前に最後の稽古をする片山さん

「お菓子放浪記」を劇化したい！って。無茶でしょ(笑)」。ところが4日後に西村さんから11枚の長い返事が届く。最初に「上演OKです」、そして最後にまた「もう一度書きます。上演OKです」との温かな言葉が。片山さんはその手紙にまた号泣、4年半前のことだ。

ずは短編ものをと、今回の2作品の舞台化を決めた。以来、劇場の確保から、スタッフや役者の決定、パンフレット&チラシ作成、広告、チケット販売までこなしてきた。立ちほだかる障害。落ち込むことも多い。しかし役者だけをやっていたらわからない手応えも感じている。チケットを売るにも、門前払いが続くなか、勇気を振り絞って飛び込みで入ったお店の店主から快く、応援してくれると言われたときの喜び。舞台というのが、

自分の目と心で物事を見極める大切さ

どれほど多くの人々の見えない苦労に支えられているのかが身にしみた。「役者って、売れる売れないとか、セリフが何行あるとかにすごく執着しながら生きている。でも先生の本に出会って、それがスパーンと吹っ飛んだんです。人の評価より、自分が何をやっていきたいかが大事なんだって。いちはん大事なのは、何があっても自分であることだと気づいたんです」理想と現実がせめぎ合うこの世界にあって、周囲の風潮に、微動だにしない信念と価値観をもちつつけることが大切だと語る。

会した恩師から「いまの世の中に美しいお菓子がないのなら、キミがそのお菓子になるの」と励まされるシーンがある。「本の結びに、美しいお菓子のような人間になるということは、ホンモノとニセモノの見わけのつく、確かな目と心をもった人間になることなのだ」という一節があります。この西村先生の深い思いを、お芝居を通して訴えつけていきたい」

「お菓子放浪記」の中で、主人公が再び

美しいお菓子は、人に夢や希望、励ましを贈り、人を幸せにする。そんな舞台をめざし、片山さんは走りつつける。

取材文：増沢京子 撮影：富本真之

PROFILE

愛知県生まれ。前進座付属養成所卒業後、テレビ・映画・CM・舞台などで活躍。主な出演作は、「篤姫」(NHK)、「失業白書」(TBS)、「運命の森」(フジ)などのドラマ、舞台「花ちりぬるを」などがある。また、演劇活動を通して社会貢献を「チーム・クレセント」を立ち上げた。第1回公演の「雛」「キップ拝見」は名古屋および東京公演が終了、静岡公演は、12月14日(金)19:00、15日(土)13:00/18:00、16日(日)13:00(サールナートホール)。再演：2013年5月31日(金)三鷹市芸術文化センター星のホール、6月1日(土)群馬県民会館小ホール。料金は3000円。問い合わせ先：チームクレセント Tel.070-6470-0384 公式ホームページhttp://crescent3.web.fc2.com/